

令和 5 年度 鹿児島県知的障害者福祉協会 事業報告書

【総括】

令和 5 年度は新型コロナウイルス感染症が感染症法上の 5 類に移行され、事業を予定通り実施することができ、コロナ禍前の日常を感じられる年となった。

本協会においては、障害者総合支援法及び児童福祉法に関する最新情報の収集や研修会を実施するとともに、県障害福祉課等行政当局に対して意見・要望を提出した。

また、定例研修の実施による職員の資質向上、人権擁護活動のよりいっそうの推進、広報誌「萌」やホームページによる広報活動の充実、鹿児島県知的障害者施設家族会連合会、さくらじまサポート協会、日本知的障害者福祉協会との連携を図り、知的障害者福祉の増進に寄与した。また、九州地区親善球技大会（鹿児島大会）を開催し、成功裡に終えることができた。

1. 障害福祉サービスの更なる充実に向けた取り組み

(1) 障害者総合支援法改正の研修として、(公財)日本知的障害者福祉協会政策委員会委員長の久木元司氏を講師として施設長等研修会を実施した。

(2) 「県議会議員及び県障害福祉課と当協会理事との意見交換会」を実施し、要望を述べた。(別紙参考資料)

(3) 「知事と語る会」に会長が出席し、要望を述べた。(別紙参考資料)

2. 人権擁護に関する取り組み

(1) 人権擁護研修会を実施し、県内各施設から 127 名が参加した。

(2) 「知的障害者施設の人権擁護ハンドブック第 3 版」を 215 冊販売した。

3. 研修活動の推進

(1) 新任職員研修会、中堅職員研修会、施設長等研修会、クリエイティブ研修会等をさくらじまサポート協会との共催で実施した。(詳細は事業実施報告参照)

4. 体育・文化行事等の実施

(1) 施設文化祭 (BoonBoonFesta)、作品展示会 (WAQ×WAQ SQUARE)、はたちを祝う会をさくらじまサポート協会との共催で実施した。(詳細は事業実施報告参照)

5. 啓発活動の推進・充実

(1) ホームページに協会活動報告や研修・行事案内等を随時掲載し、頻繁に情報の更新が行われた。

(2) 広報紙「萌」を年 3 回発行した。

6. 組織の再点検と強化、他団体との連携

(1) すべての研修、文化行事をさくらじまサポート協会との共催事業として実施した。

(2) 会員施設数が令和4年度229事業所・グループホーム69事業所(227住居)から、令和5年度228事業所・グループホーム69事業所(226住居)となった。